

【様式】

平成28年度 学校マネジメントシート

学校名（桑名高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<p>普通科、理数科、衛生看護科、衛生看護専攻科および定時制課程を設置する本校の特色を生かし、「桑名から 強くはばたく ひとつづくり」を目指します。</p> <p>そのために</p> <p>① 地域社会や保護者の多様なニーズに応じて、桑員を支える学校の責務を果たします。</p> <p>② 課程、学科の特色を生かして、多様で魅力ある学校をつくります。</p> <p>③ 長い伝統を強みとして、公教育への信頼を一層向上させます。</p>
(2)	育みたい 児童生徒像	<p>★桑名から</p> <p>① 桑員地域の中学生が最も憧れる高校</p> <p>★強くはばたく</p> <p>② 生徒が充実した学力や技能を獲得し、学ぶ意欲にあふれている状態</p> <p>③ 生徒が部活動などの自主的な活動を通じてリーダーシップと協調性を兼ね備えている状態</p>
	ありたい 教職員像	<p>★人づくり</p> <p>④ 生徒の思考力・発信力を高め、豊かな人間性を育む教育実践を行っている状態</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>○生徒 学力・クラブ活動・楽しい学校・進路実現</p> <p>○保護者 社会性・安心安全・学力・クラブ活動・進路実現・社会的自立・楽しめる学校・一人ひとりを大切にする学校</p> <p>○地域社会 地域の誇りとなる、そしてリーダーシップや協調性を持つ人材育成や社会貢献</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>○大学 知的好奇心やコミュニケーション能力高い生徒育成</p> <p>○中学校 桑高の特色明確化、中学校への情報提供</p> <p>○教育産業 桑高のニーズは何か？</p> <p>○保護者 学校の現状・方針等の情報提供と参画の機会</p> <p>○地域社会 地域活動への参加</p> <p>○病院等 地域医療へ関心</p>	<p>○大学 高大連携による情報提供</p> <p>○中学校 中高連携による意思疎通</p> <p>○教育産業 桑高のニーズに合った情報提供</p> <p>○保護者 学校と連携した家庭教育</p> <p>○地域社会 地域の教育力の活用</p> <p>○病院等 学校との密接な連携</p>

(3) 前年度の学校関係者評価等	【評価委員から】	
	<p>○総務部からの教職員の多忙化については、本来家庭教育で担うところも担ってもらっているなど先生方の時間外勤務に敬意を表したい。会議の簡素化、不必要な業務の改善や業務や業務の棚卸し等工夫して取り組まれない。</p> <p>○理数科での学びの拡大深化については、小中学校への成果発表などが考えられる。</p> <p>○「理数科発表会」について、レジュメだけの発表ではなく、論文形式での発表やポスター利用により、全校生徒への発表をビデオ作成して中学校等外部へ紹介してはどうか。</p> <p>○中学校との授業見学交流について、評価できるのでお互いの気づきを今後に生かしてほしい。</p> <p>○進路指導について、地元志向が強くなっている。</p> <p>○看護科について、看護科の生徒と普通科の看護系希望の生徒の交流や共存の工夫があるとよいのでは、看護系大学の説明会などの際の普通科と看護科の交流等引き続き行われたい。</p> <p>○定時制について、日本語指導についての工夫を継続されるなど学力向上に取り組まれない。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>これまでも、生徒は日常的な学習、クラブ活動、課外活動において、何事にも一生懸命と取り組んできている。こういった力を基本として、これからより求められる「主体的な学び」を実現するため、総合的な学習の時間、文科省や教育委員会の事業、地域社会の企画や大学、企業等との連携を有効に活かし、各学科の生徒が学習やクラブ活動以外に高校3年間で自分は「このことに取り組んだ」、「こういった事ができるようになった」、「このことでの探求を深めた」といったものを持つ機会をつくっていききたい。</p>
	学校運営等	<p>教職員は、生徒の進路実現に向け、粉骨砕身努力をしてきているが、総勤務時間の縮減に向け、会議やクラブ活動を含め、仕事の進め方について、見直す時期に来ている。多くの意見を聞き取り、実効性のある改革を早急に進める必要がある。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>参考【昨年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力向上と確かな学力の習得をはかるため、教科指導の充実と授業改善を進めます。 ・入学から卒業までを見通した進路指導により、生徒の進路希望の実現を図るとともに、勤労観や職業観を身につけるキャリア教育を体系的に推進します。 ・生徒指導、人権教育、安全教育、政治的教養を育む教育の充実に努め、生徒の豊かな人格形成に取り組みます。 ・選択教室や各 HR への ICT 機器の充実をはかります。
学校運営等	<p>参考【昨年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働きやすい職場環境を作るため、あらゆる教育活動の精選に努め、職員との対話を充実します。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
重点① 学習 指導	<p><教務部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「社会の変化に対応した教育活動に取り組みます。」 <p>◎キャリア教育の視点を取り入れた「総合的な学習の時間」の計画を考えることで、生徒間の対話を深め、気づきの取得を促進する。加えて、生徒の持つ思考力・発信力をより高め、協調性とリーダーシップを兼ね備えた状態を目指す。</p> <p>【活動指標】</p> <p>1年生：学部・学科研究を利用した自主活動 2年生：修学旅行での班別行動をつかった自主活動 3年生：校外研修会を使った自主活動 対話と気づきが大切であることを訴える講演会の実施</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」を振り返った生徒アンケートの中で、「この授業を通じて自身の成長が図られましたか」の項目で「はい」を選択する生徒の割合75%以上 <p><1学年></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人面談、学年集会、学年通信、学習計画プリント等によって、規則正しい学習習慣の確立、タイムマネジメント感覚の育成を図ります。そうすることによって、生徒に家庭学習時間を確保させると共に、自分自身の毎日の生活の振り返りをさせます。また、担任間の意思疎通をいつも心がけ、学習指導・生徒指導・進路指導に生かします。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期の学習状況調査で、平日2時間以上、休日4時間以上学習している生徒が、全体の50%以上になることを目指します。 <p><2学年></p> <p>◎①学習指導</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p> <p><教務部></p> <p>生徒アンケートの結果「そう思う」「少しそう思う」を選択した生徒が、1年77.7%、2年79.8%、3年82.5%、全体で80%であった。成果指標を達成した。学年を追うごとに高い評価を得たのは「総合的な学習の時間」の取り組みが3年間を通じた計画的な取り組みになっていることのためであると思う。年度ごとの評価もH25 73.3%、H26 74.7%、H27 76.8%、H28 80%と徐々に高い評価を得ることができている。</p> <p><1学年></p> <p>取り組み内容・指標に記した件に関して着実にやっている。その結果、生徒は中学校との違いに苦しみながらも少しずつ成長し、生活習慣・学習習慣を確立しつつある。後期の学習状況調査での目標は達成できていないが、全体の底上げを図れば十分目標達成は可能な結果が出ている。継続的な指導を続けていく。</p> <p><2学年></p> <p>9月調査では平日の自宅学習で3時間以上の生徒が</p>	<p>◎</p> <p>※</p> <p>◎</p>

【活動指標】

・生徒一人ひとりが自分の将来の目標に向かって主体的に学習に取り組み、中心学年として誇りを持った学校生活を送れるような態度を育成します。個人面談、学年集会、学年通信を通して、校内での様々な活動に携わるように、また同時に自分の目標に向かって絶え間なく努力するように、訴えていきます。

【成果指標】

・後期の学習状況調査で、平日3時間以上、休日5時間以上学習している生徒が、全体の50%以上になることを目指します。

<3 学年>

【活動指標】

・最終学年として、生徒の卒業後の進路保障を目指し、節目ごとの学年集会、個人面談の実施、学年通信の発行に取り組みます。

【成果指標】

・生徒の多くが志望している国公立大学の合格者が、普通科・理数科の卒業生数の4割以上の達成を目指します。

◎授業や校外の研修を通して自然科学や技術開発への関心を高め、将来的に地域社会のリーダーになれる資質を身につけさせる。

<理数科>

【活動指標】

・継続的な教科指導や課題研究活動、校外の研修活動などへの取り組みを通して、理系キャリア教育の充実を図ります。

【成果指標】

・授業や校外の研修における理数科生徒の満足度の「やや満足」以上が80%になることを目指します。

<看護科>学習指導

◎看護師国家試験全員合格を目標とし、思考力や判断力を養う。

免許取得時に求められる実践能力を養うために、自主的、主体的な学習習慣を確立する。

【活動指標】

※日常から思考や判断プロセスを問うような学習課題を提示し、単純想起型の知識から、

10%にも満たない状況であった。ただ、2時間以上は30%以上いるのでこれを50%以上にはしていかなければならない。休日も同様の結果であった。2月はまだ未調査であるが、かなり改善はされているようである。

<3 学年>

上級大学に進学する生徒の進路保障に向けて、学年通信を定期的に発行している。個人面談も節目節目には担任団で行っている。センター試験直前には学年団で生徒を鼓舞する学年集会を実施することができた。年度末にしか、生徒の進路先は確定しないので、成果指標の達成はこの時点では詳細に述べることはできないが、最後の仕上げに向けて、学年全体で頑張っていきたい。

<理数科>

4/20 理数科縦割りガイダンス(1,3年)
課題研究ガイダンス(2年)
(講師：名大 山口茂弘)

7/20~22 理数科合宿(1,2年)
(琵琶湖博物館、長浜バイオ大学)

10/14 理数科校外研修(1年)
(本田技研鈴鹿)

11/7 理数科校外研修(1年)
(豊田工業大学)

11/8 理数科校外研修(2年)
(四日市オキシトン)

2/1 課題研究発表会(1,2年)
などを通してキャリア教育を推進した。

<看護科>学習指導

◎学習課題においては、必ず理論づけをし、目的を明確にした上で実施を行うこととした。結果、デモンストレーションの模倣をすることは少なくなった。

◎課題提出においては、期限までに事前課題を提出することは、ほぼできた。

◎

◎

※

自らの思考の基で判断する機会を各科目から体験する。

- ・産業教育における事業、臨地実習施設行事、看護協会等の行事等、積極的に参加し、現場体験に基づく気づき等を大切にす
- る。
- ・専門領域の充実と、職業観育成のために外部講師を招いてキャリア教育の充実を図る。

【成果指標】

- ・学習課題の充実を図り、必ず科学的な根拠づけ、倫理的配慮に基づいた内容であるかを評価する。
- ・全員、期日までに課題提出ができるようにする。
- ・行事の参加後は必ず振り返りシートを記入し、体験を基に今後の考察も記入できるようにする。

<定時制>学習指導

【活動指標】

- ・1, 2年において国語・数学・英語の3教科で習熟度に応じた特別授業を実施し、基礎学力の定着と向上を図り、外国籍の生徒についても日本語指導を踏まえ取り組みます。

【成果指標】

- ・生徒満足度80%を目指します。

【活動指標】

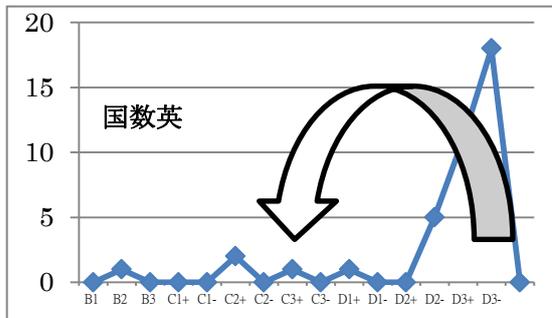
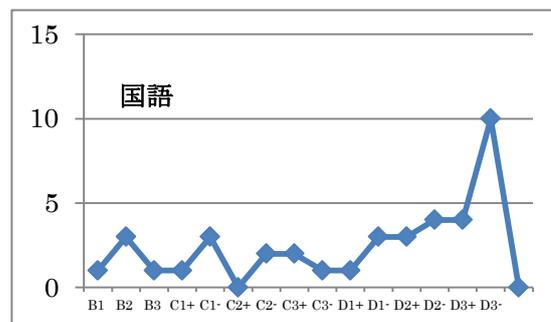
- ・生徒の「生きる力」醸成のために防災・環境・安全・健康・人権等に関する総合学習を年間35時間以上実施します。

【成果指標】

- ・生徒満足度について4段階でA、B合わせて90%以上を目指します。

<定時制>学習指導

今年ベネッセの基礎力診断テストを導入し、生徒の全国比較の基礎学力を知ることができた。現段階では以下の表のような段階である。今後、矢印の方向に全体の山を移動できるよう努力させたい。



重点③
人権教育・生活指導

<総務部>

【活動指標】

・人権便りを年5回以上発行し、生徒の日常に生じる内容を取り上げ、人権推進教育を身近に感じられるように促します。

・人権講演会を実施し、生命・人権を尊重する心、他人を思いやる心、共に生きる豊かな心を育みます。

◎人権ロングホームルームを実施し、生徒が主体的に話し、相手を受容することができるよう指導します。

【成果指標】

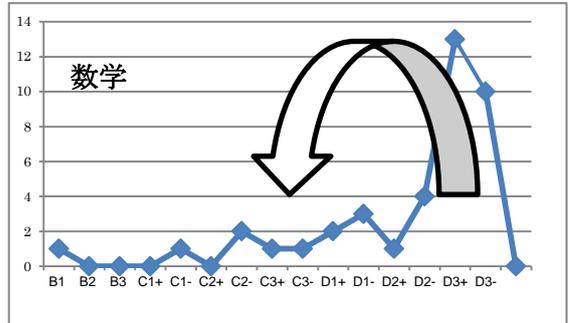
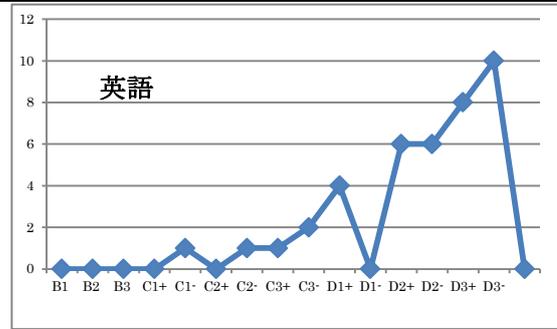
・人権講演会・人権ロングホームルーム後の感想・アンケートにおいて、肯定的な意見・感想などが8割を超えることを目指します。

<生徒指導部>

◎心身の成長期にふさわしい基本的生活習慣の確立を目指し、自主・自律した生活が送れるように指導を行います。

【活動指標】

・平常授業時には毎朝10分間校門（北門）にて遅刻指導・服装指導を行い、基本的生



「D3-」(中学の学習が確立されていない生徒)・「C」中3終了レベル・「B」高1終了レベル

このテストは毎年夏休み明けに同じテストを実施し、達成感が得られるよう、確実に基礎学力の定着を目指す。卒業時には「B」レベルを目標として向上を目指す。外国籍の国語については、まだ理解できない部分が多く、得点は取れていない。

外国人生徒については引き続き、「日本語取り出し授業」を行い、早くコミュニケーションが取れるよう日本語を上達させ、努力していきたい。

<総務部>

(人権教育)

・「ルシル通信」現在3号まで発行。

・11月16日に人権講演会「誰かのためではない、自分のために」原田朋記氏(反差別人権研究所みえ)

・1月18日公開人権HR(1、2学年)を実施。アンケートは肯定的な意見・感想が9割以上みられる。

・11月に「身近な人権」をテーマにした人権講演会を実施し、事後に行ったアンケートでは人権問題を考えることに対して肯定的な意見や感想が多く見られた。また講演の中で語られた問題について、疑問に思うことやもっと理解を深めたいという正直で真摯な感想を書いた生徒もあり、1月の人権ホームルームにつながる大事な視点を教えてもらう結果になった。

・1月に実施した公開人権ホームルームでは、「うわさに流されないためにどうするか」「ネットに関する人権問題とはどのようなものか」「ネットやSNSを使用する時に気をつけること」といった、身近で具体的なことを取り上げてアクティビティとい話し合いを中心に行った。事後のアンケートで

重点②
進路
指導

活習慣の確立を身に付けさせます。また、主に定期考査期間時に通学路にて登校指導を行い交通事故防止や交通ルールを厳守するよう指導をおこないます。また校内ではあいさつの励行、身だしなみを整える「Formal Week」を月に1週間実施し、品格を備えた桑高生を育みます。そして年3回全職員体制で頭髪服装指導を実施し身だしなみを整える指導を行います。

【成果指標】

・身だしなみを整えさせる取組の中でも特に女子生徒のスカート丈において適正な長さでの着用を定着させることに重点課題に置き、年3回の服装指導時においてスカート丈が適正な状態で着用できている生徒数が女子全体の98%以上になることを目標とします。

<進路指導部>

・キャリアデザインに基づいたコース選択や志望校の決定をし、第1志望校の合格を実現します。

【活動指標】

・校内大学説明会の充実を図ります。キャリア教育の視点からの進路指導を行います。

校内大学説明会の充実や1年の文理選択と2年の科目登録前にキャリア講演会を開くなど、生徒の進路選択をするうえで有効な材料を提供します。難関大の中でも希望者が多い名古屋大学への進学対策講座「名大チャレンジサポート」を実施します。

【成果指標】

・説明会、進路講演会の事後アンケート結果において全項目3点以上(4点満点)国公立大学現役合格者数が、普通科・理数科卒業生数の4割以上
名古屋大学現役合格者数が15名以上
難関国立10大学と医学部の現役合格数が20名以上。
3学年4月の調査における第1志望校に現

は「グループ協議を通して、様々な意見を知ることで人権問題に対する見方の幅が広がった」「楽しく有意義な人権学習だった」という肯定的な意見が多く見られた。

・【人権】人権だよりは当初の予定通り発行できた。(2月現在で第4号まで発行)講演会・ホームルームで出た意見をもとに振り返りを行うことで、個々の生徒が自分の身近にある人権問題に気づき、考えられるようになってきたと思う。

・次年度は「部落問題」をテーマにした人権ホームルームと講演会を実施する予定であるが、生徒自身が深く理解し考えさせることができる人権学習になるように、年間をとおして系統立てた取り組みを考えていきたい。

<生徒指導部>

・寝坊による遅刻者数は近年減少傾向にあり、昨年度との比較でも減少している。やや不登校傾向の生徒の遅刻が回数としては多く見られる。

・特に服装面(制服の正しい着用)においては数年前に比べ格段に良くなっている。

1月実施の服装検査では校則違反になる着こなしの生徒は0人であった。しかし日常の場面においては着崩して着用している生徒(スカート)が若干見受けられる現状であるのが今後の課題の一つでもある。

<進路指導部>

【達成状況・評価結果】

・1年生向け説明会は文理選択を控えた10月に、三重大から5学部6学科の先生を招き、普通科・理数科全員参加の分科会形式で実施した。

・2・3年生向け説明会は、7月に名古屋大学から工学部と理学部の2学部、大阪大学から法学部を招いて実施した。参加者はそれぞれ33, 26, 15名であった。6月に三重県立看護大を招いて、1～3年の看護系進学希望者に6月に看護職一般についての講演会を開催し、15名の参加があった。

・名大チャレンジサポートについて、初回は61名、夏課外は58名、秋の陣では56名と、モチベーションをぎりぎりまで下げないように取り組むことができた。センター後の2月の名大対策講座は、16名の参加であった。・夏の京都大学見学会は1年を中心に45名の参加があり盛況であった。

・今年度は、名古屋大学のMIRAI SGC や名古屋・三重・名城3大学共催のLEDスクールなど校外研修

◎

役で合格した生徒が普通科・理数科卒業者数の2割以上

<定時制（進路指導）>

【活動指標】

・生徒の実態に応じた進路指導を実施し、労働に対する意欲を持たせるとともに、主体的に進路を選択できる力を身に付させます。

【成果指標】

・生徒の有職率80%を目指します。

・各教科で、ICT機器の充実について検討していきます。

重点④
ICT機器
の充実

会への参加を積極的に呼びかけ、前者では1名、後者では6名の参加者。

- ・進路講演会は3月のため年度末に評価を行う。
- ・国公立大、名大、第1志望校への現役合格数の達成状況は年度末に評価を行う。

【具体的取組に関する成果や課題】

- ・2，3年生向け大学説明会は意識が高い生徒が参加しているが、参加人数が若干減少傾向である。2年続けて同じ内容にならないよう学部を変えて実施をしているが、開催日時や内容について生徒にとってより魅力的なものになるように計画したい。
- ・名大チャレンジサポートについて、いろいろと改善を加えて3年目となり、軌道に乗ったという印象である。現2年生ではこの取り組みを前倒しに実施しており来年度以降さらなるバージョンアップも期待できる。ただ、今年度の3年生は、せつかく秋まで生徒のモチベーションを維持しながら実際の出願に結びつかなかったことは来年度の課題としたい。
- ・総合的な学習の時間の年間計画について、他の分掌とも協力しながら、キャリア教育の視点から位置づけやつながりを重視して再構築することができた。今後は、4年後の新テストの実施やこれにともなう大学入試改革に焦点を当てながら、準備をはじめなければならない。

<定時制（進路指導）>

資格習得について

今年度は資格試験に挑戦し日本情報処理検定主催・日本語ワープロ検定に挑戦し、準2級合格2名、3級・4級合格それぞれ1名であった。

今後、漢字検定なども挑戦させ、少しでも今後の就職活動に役立つよう頑張らせた。

就職について

WEB求人表を閲覧できるよう作成し、どの学年でも閲覧できるようにした。就職に対して早い段階から意識させるようにし、4年生では早くから企業訪問し面接練習に励み、試験に挑戦した。今年度は就職内定100%達成し、来年に向けても達成させたい数字である。

	以上になることを目指す。		
--	--------------	--	--

改善課題

【総務】

・何より多忙化が課題と思われる。メールや電子掲示板等での連絡のやり取りが増加、直接対話をする機会が不足という現状にある。今後も引き続き、業務や会議などの精選や効率化に取り組み、職員がゆとりをもって仕事が行えるような職場づくりに取り組む必要がある。

【進路】

・大学説明会について、開催日時や内容について生徒にとってより魅力的なものになるように計画したい。
 ・名大チャレンジサポートについて、いろいろと改善を加えて3年目となり、軌道に乗ったという印象である。現2年生ではこの取り組みを前倒しに実施しており来年度以降さらなるバージョンアップも期待したい。難関大学へ挑戦し続けるモチベーションを維持できるように努めたい。
 ・理数科における理系キャリア教育の充実と理数科で取り組んだことの拡大や深化について工夫改善したい。今年度の卒業生でもある名古屋大学教授の講話はよかったので今後も「オール桑高」の力を活用して取り組む。
 ・理数科だけでなく、普通科理系での探求的な活動について工夫していきたい。
 ・総合的な学習の時間の年間計画について、他の分掌とも協力しながら、キャリア教育の視点から位置づけやつながりを重視してさらに再構築していきたい。
 ・新テストの実施やこれにともなう大学入試改革に焦点を当てながら、思考・判断・表現を取り入れた学びや英語の4技能を高めるための学習機会等の創設の準備をはじめていきたい。

【生指】

・遅刻者数は近年減少傾向にあり、昨年度との比較でも減少している他、服装面（制服の正しい着用）においても数年前に比べ格段に良くなっているので、さらに、制服の着崩しなどについて指導していきたい。

【教務】

・「総合的な学習の時間」の取り組みが学年を追うごとに高い評価を得ており、3年間を通じた計画的な取り組みになっているので、さらにいっそうの工夫と改善を続けたい。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>【評価委員から】</p> <p>○総務部からの教職員の多忙化については、本来家庭教育で担うところも担ってもらっているなど先生方の時間外勤務に敬意を表したい。会議の簡素化、不必要な業務の改善や業務や業務の棚卸し等工夫して取り組まれない。</p> <p>○理数科での学びの拡大深化については、小中学校への成果発表などが考えられる。</p> <p>○「理数科発表会」について、レジュメだけの発表ではなく、論文形式での発表やポスター利用により、全校生徒への発表をビデオ作成して中学校等外部へ紹介してはどうか。</p> <p>○中学校との授業見学交流について、評価できるのでお互いの気づきを今後に生かしてほしい。</p> <p>○進路指導について、地元志向が強くなっている。</p> <p>○看護科について、看護科の生徒と普通科の看護系希望の生徒の交流や共存の工夫があるとよいのでは、看護系大学の説明会などの際の普通科と看護科の交流等引き続き行われたい。</p> <p>○定時制について、日本語指導についての工夫を継続されるなど学力向上に取り組まれない。</p>
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	これまで、生徒は日常的な学習、クラブ活動、課外活動において、何事にも一生懸命と取り組んできている。こういった力を基本として、これからより求められる「主体的な学び」を実現するため、総合的な学習の時間、文科省や教育委員会の事業、地域社会の企画や大学、企業等との連携を有効に活かし、各学科の生徒が学習やクラブ活動以外に高校3年間で自分は「このことに取り組んだ」、「こういった事ができるようになった」、「このことでの探求を深めた」といったものを持つ機会をつくっていきたい。
学校運営についての改善策	教職員は、生徒の進路実現に向け、粉骨砕身努力をしてきているが、総勤務時間の縮減に向け、会議やクラブ活動を含め、仕事の進め方について、見直す時期に来ている。多くの意見を聞き取り、実効性のある改革を早急に進める必要がある。